

現在ほぼ直線的な尾道水道も、建治元年（一二七五）の「尾道略図」（写し現存）によれば、山裾に沿った湾入が描かれていて、独立した位置関係にも考えられ、現地表面も標高三・三・五mに据えられ、中世浄土寺文書中の「在家」が想定される位置にある。

これまでの尾道遺跡調査成果から、ことに海浜近くで漸進的な埋め立てに、列石が重要な役割を担ってきたことが次第に明らかとなってきた。本調査でも、自然石円礫・角礫が平坦部（生活面？）端からやや膨らみをもった斜面に貼石状の列石として検出され、現海岸線にも対面する位置関係にあって鎌倉時代前半期の護岸と推定している。墨書のある木製下駄は、平坦部の下約一mの沈澱層中より多くの木片とともに出土した。

8 木簡の釈文・内容

一木造りの連齒下駄で、本遺跡出土品中加工が全面に及んで丁寧な作りであることを特徴とする。墨痕は前歯前面に比較的良好に残る。「ア」又は「刀」形に見られるがあるいは使用者の目印としてのマークと考えたい。

（森重彰文）

香川・紺屋町遺跡

- 1 所在地 香川県高松市紺屋町
- 2 調査期間 一九八五年（昭60）一〇月～一九八六年一月
- 3 発掘機関 高松市教育委員会
- 4 調査担当者 藤井雄三
- 5 遺跡の種類 近世町家跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

紺屋町遺跡は、高松市街の中心部に位置し、現在は市立美術館が立地している。当該地は、北側が紺屋町通、南側が鍛冶屋町通に面



（高松）

しており、城下町絵図等の資料から、近世当時の町屋の景観、所在等がかなり詳細に復原できる箇所である。このために美術館の建設に先立ち、部分的ながらも緊急に調査を実施したものである。調査は、紺屋町側と鍛冶屋町側の二カ所に建物

の空閑地を選んで設定したが、木簡のまとまった出土を見たのは紺屋町側の調査区であった。調査区の概要は次のとおりである。

紺屋町側調査区は、通りに面して東寄りにL字形のトレンチを設定した。面積は八〇㎡で、地表より一・二mまでを重機で掘削した。当初、「紺屋町」の通り名から大甕群等の出土を期待したが、紺屋の兆候を直接示すものは確認できなかった。遺構面は藩政期のものと見られ、近世、近代の土壌計一四以上、井戸三、溝、水路等の遺構が確認でき、遺物では、大型のサザエ殻多数のほか、フイゴ羽口、近世陶磁器片等が出土した。このうち、木質資料を出土したのは調査区東端の二つの土壌である。

これらの土壌は、一・六mの間隔を置いて南北に並んで検出された。規格は、北側(二号土壌)が平面長軸二・五m×短軸二m×深さ一・三m、南側(二号土壌)が同じく二m×一・六m×〇・九mである。両者ともに多様な遺物を包含するが、その種類はほぼ共通しており、陶磁器片等に時期差を示すものが含まれるものの、新旧の遺物が全層に散在しており、共に一時に投棄されたものと考えられる。一号土壌の埋土は、最下層に大量の瓦が堆積しており、瓦片の間隙は水で充滿した状態であった。瓦層の上層は粘質の強いシルト層で、このさらに上層の各層で木質資料が出土している。

土壌の年代観は、主に包含される陶磁器に拠るところが大きい。遺物個々についての細述は省くが、時期的には一八世紀のものが最

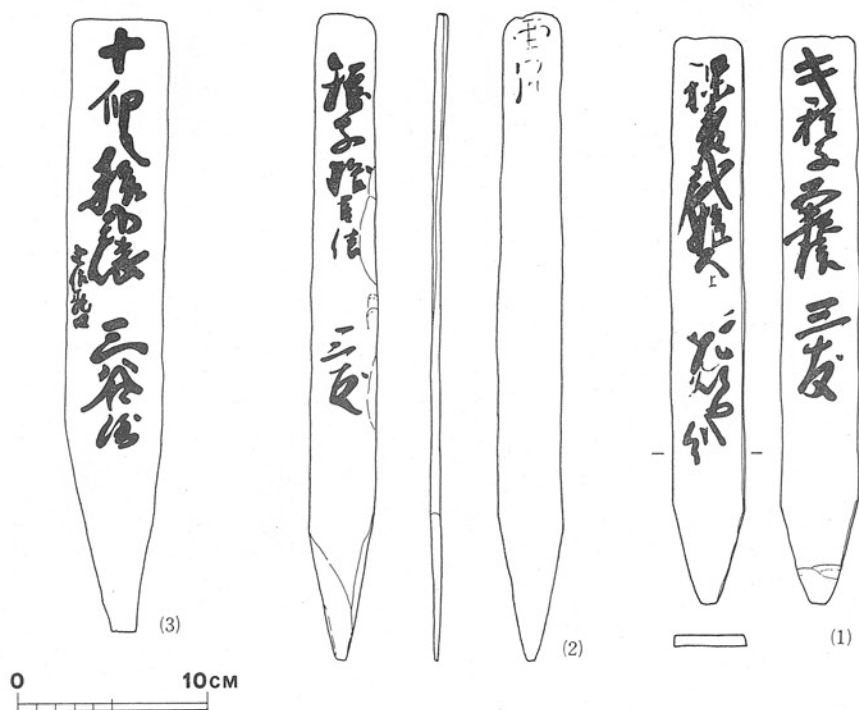
も多く、一六世紀末～一七世紀代、さらには一九世紀前半にかかると思われるものも含まれ、伊万里・有田焼を中心に唐津・瀬戸焼も見られる。前述のように遺物の包含状況からごく短期間の投棄によるものと推定できる。

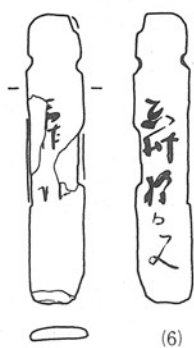
木質資料は、付札の他、桶側板、下駄、箸、丹塗り碗等が出土している。付札は墨書がある程度解読可能なもののみを選んで図化した。

8 木簡の釈文・内容

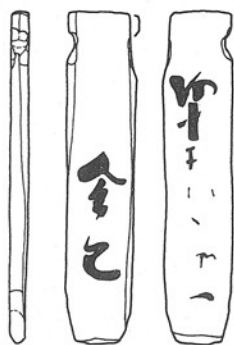
- | | | |
|-----|--------------------|----------------|
| (1) | ・「キ種子五拾俵 三〇」 | |
| | ・「裸麦式拾 〇〇〇〇」 | 300×38×6 051 |
| (2) | ・「 〇〇」 | |
| | ・「種子拾〇俵 三〇」 | 348×34×5 051 |
| (3) | ・「十〇八拾式俵 三谷屋 由佐 〇」 | 329×52×5 051 |
| (4) | ・「 〇〇」 | |
| | ・「山田郡西植田村」 | (107)×40×7 039 |
| (5) | ・「 〇〇」 | |
| | ・「 〇〇」 | (135)×26×7 039 |

- (6) 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕
 (7) 〔 〕 〔 〕 〔 〕 納
 〔 〕 山田郡西植田 ×
 (8) 〔 〕 右衛門
 〔 長尾村 〕
 (9) (穿孔) 〔 〕 郡 〔 〕 右衛門
 (10) 〔 〕 村七右衛門
 (穿孔) 〔 〕 小和泉 (穿孔) 〔 〕 小和泉
 (11) 〔 〕 小和泉
 (12) 三 〔 〕
 (13) 〔 〕 〔 〕
- (118) × 23 × 5 039
 (85) × 26 × 5 059
 80 × 22 × 4 051
 (160) × 22 × 8 019
 127 × 23 × 6 051
 91 × 48 × 7 011
 (52) × (23) × 6 081
 (102) × (23) × 5 081
 (山本英之)





(6)



(5)



(4)



(10)



(9)



(7)



(8)



(13)



(12)



(11)

